

平成 24 年度施策パッケージヒアリング資料 (人材育成/基礎研究) 【文部科学省】

	施策パッケージ番号	241001	領域	人材育成	施策パッケージ名	次代を担う人材の育成	
施策パッケージの目標	第4期科学技術基本計画で掲げられている「次代を担う人材の育成」や成長戦略実行計画（改訂工程表）で掲げられている「理数教育の強化と理系進学促進」を推進するため、先進的な理数系教育を行う学校の支援や科学技術コンテストの支援などを行い、優れた才能を有している子どもの才能をさらに伸ばすことを目的とする。						
目標実現に向けた具体的アプローチ	スーパーサイエンスハイスクール支援事業では、先進的な理数系教育等を実施する高等学校等を文部科学省において「スーパーサイエンスハイスクール」として指定し、独立行政法人科学技術振興機構（JST）において課題研究の推進するための経費等を支援することで、高等学校等における理数系教育を充実する。 サイエンス・パートナーシップ・プラットフォームの中に位置づけられている科学技術コンテスト支援では、各団体が行う国内大会の開催や合宿訓練、国際大会への日本代表選手の派遣等の経費の一部をJSTにおいて支援することにより、才能を有する高校生等の能力をさらに伸ばしていく。 理数学生育成プログラムでは、意欲ある理数系学生をさらに伸ばすための取組を行うことにより、大学学部段階における科学技術人材の育成を推進する。 これらの取組により、主に高校段階から大学段階までの人材育成を体系的に進める。						
パッケージ内の個別施策	施策名	概要及び到達目標・時期			H24当初合計額 (H23)（百万円）	期間	実施機関
	スーパーサイエンスハイスクール支援事業	スーパーサイエンスハイスクール指定校が実施する学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進等を支援する。平成24年度は160校に拡大する（平成26年に200校が目標）とともに、理数教育の拠点となるコアSSHを拡充する。			2,721 (2,403)	H14～	文部科学省 独立行政法人科学技術振興機構
	サイエンス・パートナーシップ・プラットフォーム	科学の甲子園や国際科学オリンピックなどの「研鑽・活躍の場の構築」と、早期研究人材育成プログラムなど「人材育成活動の実践」への支援を通じて、将来の科学技術を担う人材を育成するための基盤を整備する。			1,037 (1,082)	H24～	独立行政法人科学技術振興機構
	理数学生育成プログラム	大学学部段階における理数系人材育成に特化した取組を支援する（理数学生育成支援事業）とともに、全国の自然科学を学ぶ学部生が研究成果を発表し競い合う場（サイエンス・インカレ）を構築する。理数学生育成支援事業については、全国に取組が普及することを目指す。			300 (150)	H23～	文部科学省
施策パッケージ全体予算額 (百万円)	H24当初要求額合計（復興、要望枠を含む）				4,058 百万円		
	うち運営費交付金				3,758 百万円		
期間	H23－H27			資金投入規模（億円）		－	
実施体制	スーパーサイエンスハイスクール支援事業及びサイエンス・パートナーシップ・プラットフォームについては、JSTの運営費交付金で実施する。 理数学生育成支援事業については、文部科学省において直接実施しており、大学に対して公募を行い、審査は外部性を有する評価者によって行う。						
施策パッケージ責任者	文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長 板倉 周一郎						
施策パッケージの目標実現への向けた現状分析	第4期科学技術基本計画において言及されているように、天然資源に乏しく、また今後も人口減少が見込まれる日本において、科学技術イノベーション政策を強力に推進していくためには、これを担う優れた人材を絶え間なく育成していくことが重要であるが、次代を担う人材の育成に必要な予算が十分確保されているとは言い難い状況にある。						